

- 事前に装着方法を十分理解し、練習をして確実に装着！
- 装着後には必ず緩みがないかを確認！

緩んだままの使用や緩み止めの誤使用等で切れたチェーンは、車体やタイヤを傷つけるおそれがあります。

チェーンを取り付けて数十～数百m走行した後は必ず緩みを確認し、走行途中でも時々緩みの確認をするようにしましょう。



- スピードの出し過ぎや“急”のつく運転操作はやめる！

金属製チェーン使用時の速度の目安は商品によって異なりますが、おおむね30km/h以下となっていました。スピードの出し過ぎ、急発進、急ブレーキ等はチェーンの損傷を早め、切れたチェーンで車体を傷つけることにもつながります。緩やかな発進、加減速、停止を心がけましょう。

- 積雪や凍結のないアスファルト路面での走行は避ける！

積雪や凍結のないアスファルト路面での走行は、チェーンが切れる可能性が高くなるので避けましょう。なお、着脱は安全な場所で行いましょう。

- 過度の摩耗等の異常が見られるものは使用を中止！

使用前に摩耗状態を点検し、過度の摩耗等の異常があれば使用を中止しましょう。



◀ 摩耗したチェーン
国民生活センターが消費生活センター等からの依頼で商品テストを行った事例より抜粋



本内容の詳細は、独立行政法人
国民生活センター公式サイトに
掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

くらしの危険

最新号やバックナンバーは
こちらからご覧いただけます。

公式サイト「くらしの危険」コーナー

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>



●「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。●特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。●商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。●無断転載はお断りいたします。



独立行政法人

国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL: 042-758-3165 ● 2017年 11月発行

イラスト：川崎 敏郎

くらしの危険

Number

340

金属製タイヤチェーン －使用時のトラブルに注意－

自動車で積雪路や凍結路等を走行する際、滑り止めのためにタイヤに取り付ける金属製の鎖や、ウレタンやゴム製のタイヤチェーンがありますが、PIO-NET※1には、過去5年間にタイヤチェーンの安全・品質に関する相談が89件※2寄せられています。また、国民生活センターには、金属製チェーン（以下、「チェーン」）について走行中の破断に関する商品テスト依頼があり、切れたチェーンによって車体が傷付いたり、ブレーキが利きにくくなって雪の壁に衝突したりするなどのトラブルも発生していました。



▲ 金属製タイヤチェーン（例）



※1: PIO-NET(全国消費生活情報ネットワークシステム)は、国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する相談情報を蓄積しているデータベースのことです。

※2: 2011年度以降、2016年12月31日までの登録分。

こんな相談が寄せられています

※ PIO-NETに寄せられた相談事例より（2011年度以降、2016年10月31日までの登録分）

ケース 1

雪山へ向かう高速道路で買ったばかりの金属製チェーンが切れ、ホイール等が傷だらけになり、修理に7万円かかった。メーカーによる事故品の調査では、速度超過か、長い距離を走ったか、タイヤの空転が考えられるとのことだった。
（受付年月 2015年1月、相談者:30歳代・女性）

ケース 2

新品のチェーンを装着し雪道を5キロ走行したところ切れて車に傷が付いた。購入した店に不具合の調査依頼をしたが、急発進、急ブレーキのいずれかにより、正規使用時以上の負荷が加わったためと報告され納得できない。
（受付年月 2016年2月、相談者:40歳代・男性）



アンケート調査

● “備え”として購入: 約6割

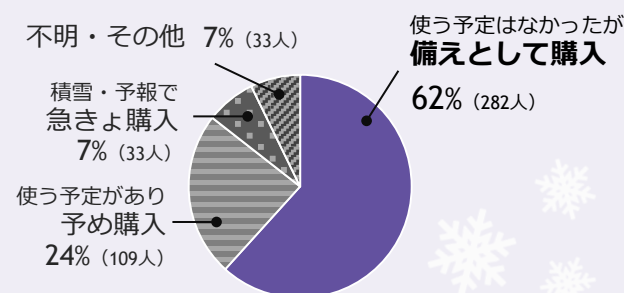


図1: 使用した金属製チェーン購入理由 (n=457)

● 使用時のトラブル: 約4割

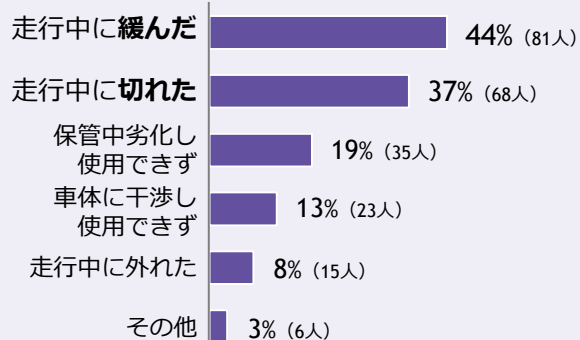
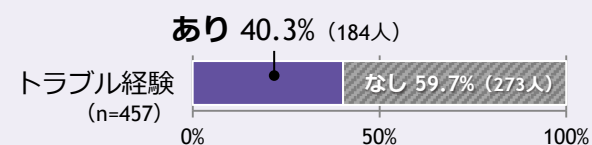


図2: チェーン使用時のトラブル (n=184, 複数回答)

チェーンが「緩んだ」「切れた」136人（重複除く）に聞きました

● 車体等が損傷: 約2割以上 (35回答)



図3: トラブル発生時の損傷箇所 (n=35, 複数回答)

● トラブル発生時の速度30km/h超: 約4割 (52回答)



図4: トラブル発生までの走行距離 (n=136, 複数回答)

● 「切れた」約5割 アスファルト走行中

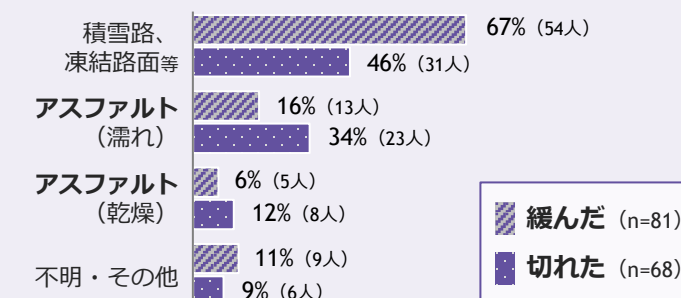


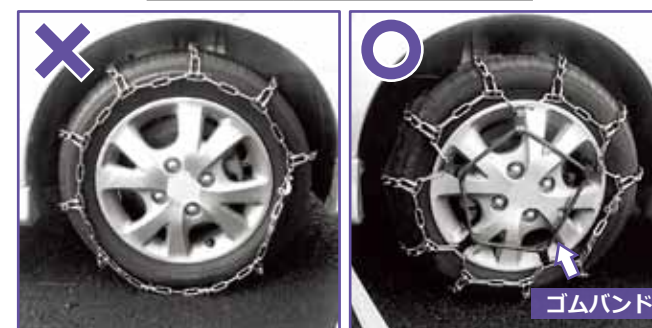
図5: トラブル発生時の路面状況



トラブル発生を想定した再現実験

■ 正しい装着と誤った装着: ゴムバンドや巻き上げ器を正しく使用しない場合、チェーンに緩みが発生します

▼ ゴムバンドを使用する製品の例



ゴムバンドを使用していない

正しい装着

▼ 巻き上げ器を使用する製品の例



巻き上げ器が緩んでいる

正しい装着

1

チェーンが緩んだままでの使用

— 緩み止めとなるゴムバンドや巻き上げ器を正しく使用しない状態での走行試験 —

- ◆ チェーンの浮き上がり、車体への接触や路面への強いたたき付けが発生
- ◆ 外れかけたままチェーンを使用すると短期間で摩耗や破断したり、ブレーキホース等に巻き付いて損傷させるおそれもある

※ 遠心力によるチェーンの浮き上がりは、発進時や雪に埋まった状態でアクセルを強く踏み込んで車輪が空転するときにも起こります。

▼ 浮き上がり、叩き付けられるチェーン (30km/h)



遠心力でチェーンが浮き上がる

チェーンが路面にたたき付けられる

▼ 外れかけるチェーン (20km/h)



チェーンが車両内側に脱落

2

チェーン使用時に急ブレーキ

— チェーンを付けた状態（ゴムバンドを正しく使用した場合／使用しなかった場合）で急ブレーキ操作 —

- ◆ チェーンが大きくねじられ大きな負担がかかるおそれもある

▼ 急ブレーキで大きくねじれるチェーン



ゴムバンド使用: 大きなねじれ

ゴムバンド不使用: より大きなねじれ

